

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4719	明治36年	春の部	鶴も帰り梅もちりけり丘夕	梅	植物
4720	明治36年	春の部	暗きより出でし貴人や薪能	薪能	人事
4721	明治36年	春の部	冴え返る神の井の水湧き足らず	冴返	時候
4722	明治36年	春の部	氷とけて鴛鴦の毛も流れけり	氷解	地理
4723	明治36年	春の部	木の芽苦き鶯の舌や別霜	別れ霜	天文
4724	明治36年	春の部	春浅し等閑に見る蛙の句	春浅し	時候
4725	明治36年	春の部	野を焼くや貴人たま / \ 過ぎにけり	野山焼	人事
4726	明治36年	春の部	春風の吹静まりやうす曇	春風	天文
4727	明治36年	春の部	初午や一樹うれしき野路の梅	初午	人事
4728	明治36年	春の部	鳴くや田螺夜来八萬四千の偈	田螺	動物
4730	明治36年	春の部	初雷や命婦訪ふ草の宿	初雷	天文
4731	明治36年	春の部	初雷や高麗人光る君を相る	初雷	天文
4732	明治36年	春の部	折からの初雷や品さだめ	初雷	天文
4733	明治36年	春の部	初雷に尼君ひとり淋しけれ	初雷	天文
4734	明治36年	春の部	初雷を紫の上寐入りけり	初雷	天文
4735	明治36年	春の部	初雷に物のけ落す修法かな	初雷	天文
4736	明治36年	春の部	初雷や小君かしこきかへり言	初雷	天文
4737	明治36年	春の部	初雷や衣にかくるゝ人ぞうき	初雷	天文
4738	明治36年	春の部	初雷や末摘花もあはれなり	初雷	天文
4739	明治36年	春の部	初雷や松も淋しき須磨の宿	初雷	天文
4740	明治36年	春の部	陽炎の乱れて孔雀飛ばんとす	陽炎	天文
4741	明治36年	春の部	日蝕や水草の芽のうす緑	草の芽	植物
4742	明治36年	春の部	菊根分こゝにひとりの翁あり	菊根分	人事
4743	明治36年	春の部	門前に子等集ひけり西行忌	西行忌	人事
4744	明治36年	春の部	梅月夜水神を見るかしこさよ	梅	植物
4745	明治36年	春の部	童子二三人春服既に成る	春服	人事
4746	明治36年	春の部	日蝕や野に囀の声もなし	囀	動物
4747	明治36年	春の部	試に童子酔ひたり桃の酒	桃の酒	人事
4748	明治36年	春の部	酒壺や多少の桃花鮮かに	桃	植物
4749	明治36年	春の部	桃の酒顔色いよゝ美なる哉	桃の酒	人事
4750	明治36年	春の部	桃の酒小狙も酔ひて睡りけり	桃の酒	人事
4751	明治36年	春の部	桃の酒楊貴妃に戯れ給ふ	桃の酒	人事
4752	明治36年	春の部	春の月還御の頃を傾きぬ	春の月	天文
4753	明治36年	春の部	春の月花にそむける人や誰	春の月	天文
4754	明治36年	春の部	春の月加茂の社家人ほのめきて	春の月	天文
4755	明治36年	春の部	春の月枯れて久しき柳かな	春の月	天文
4756	明治36年	春の部	清水の舞臺や春の月に歩す	春の月	天文
4758	明治36年	春の部	ゆく春の雲見れば雲流れけり	行春	時候
4759	明治36年	春の部	春立や紫の衣市の人	立春	時候
4760	明治36年	春の部	若草の妻とこもりて雉子きく	雉子	動物
4761	明治36年	春の部	飯喰に戻るもうしや猫の恋	猫の戀	動物
4762	明治36年	春の部	春の雪つらなるともし春めきぬ	春雪	天文
4763	明治36年	春の部	折からの春の雷うれしけれ	春雷	天文
4764	明治36年	春の部	梅の花日の本國神の國	梅	植物
4765	明治36年	春の部	春さむし母の病に花もなし	春寒	時候
4766	明治36年	春の部	初雷やかるとの友と夜を語る	初雷	天文
4767	明治36年	春の部	白魚をめぐはし妹におくりけり	白魚	動物
4768	明治36年	春の部	鶯にのますべき水もぬるみけり	鶯	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4769	明治36年	春の部	牢を出れば木芽の春となりけり	木の芽	植物
4770	明治36年	春の部	雪なだれさくべきさくら折れにけり	雪崩	地理
4771	明治36年	春の部	清貧と称す厨や鮎膾	鮎膾	人事
4772	明治36年	春の部	よき海苔の十帖ばかり土産哉	海苔	植物
4773	明治36年	春の部	妻よびに猫出る頃や露のとう	露の臺	植物
4774	明治36年	春の部	まや參馬に驚く女づれ	摩耶詣	人事
4775	明治36年	春の部	日の春や刀をつゝむ古錦らん	春日	時候
4776	明治36年	春の部	翻々とうるはしき子やつくしつみ	土筆	植物
4777	明治36年	春の部	土筆つみ茨の下をかいくどり	土筆	植物
4778	明治36年	春の部	しばらくは土筆もつまで遊びけり	土筆	植物
4779	明治36年	春の部	土筆つむ兼好法師も春の人	土筆	植物
4780	明治36年	春の部	つくしつみし今宵の夢や乳母が宿	土筆	植物
4781	明治36年	春の部	飯蛸の飯も料理やうど若し	飯だこ	動物
4782	明治36年	春の部	おもんみれば釈迦終焉記迦葉筆	涅槃會	人事
4783	明治36年	春の部	塗物を玉かと春の光かな	春の光	天文
4784	明治36年	春の部	雁風呂に胡女が唄を憐みぬ	雁風呂	人事
4785	明治36年	春の部	薬も乏しきばらの苔かな	薬	植物
4786	明治36年	春の部	二日灸三里は花の定坐かな	二日灸	人事
4787	明治36年	春の部	鳴神の氣もすが / \ と接木哉	接木	人事
4788	明治36年	春の部	歌書俳書その棚々や炉をふさぐ	爐塞	人事
4789	明治36年	春の部	熊野を謠ふ楼上の灯や帰雁	帰る雁	動物
4790	明治36年	春の部	釈典や彼の丘隅の黄なる鳥	釋奠	人事
4791	明治36年	春の部	たぬしきゝつかもとよみけり春の歌	春	時候
4792	明治36年	春の部	苗代の多少の水や春深淺	苗代	地理
4793	明治36年	春の部	竹の秋山莊に定家雨をきく	竹の秋	植物
4794	明治36年	春の部	草餅に脇句うれしく吟じけり	草餅	人事
4795	明治36年	春の部	春の海須磨は悲しき処かな	春の海	地理
4796	明治36年	春の部	負けるなと其角が声や鶏合	鶏合	人事
4797	明治36年	春の部	春眠不覚曉と答へけり	春眠	人事
4798	明治36年	春の部	其角忌や疊の上の松の影	其角忌	人事
4799	明治36年	春の部	苗代の畔や菜種のこぼれ咲	菜の花	植物
4800	明治36年	春の部	羽衣を望む蛙の目つき哉	蛙	動物
4801	明治36年	春の部	蜜蜂の蜜に酔ひたる宵寐哉	蜂	動物
4802	明治36年	春の部	去る蝶の女心や来る蜂	蜂	動物
4803	明治36年	春の部	扇軽く花に小蜂を拂ひけり	蜂	動物
4804	明治36年	春の部	蜂の子の薊の花に遊びけり	薊の花	植物
4805	明治36年	春の部	蜂一ツ侯伯を脅かし去る	蜂	動物
4806	明治36年	春の部	木の実うゑて寺に碁を見る樵者哉	木實植う	人事
4807	明治36年	春の部	園林の遅日木実もうゑにけり	木實植う	人事
4808	明治36年	春の部	木の実うゑる山の流もぬるみけり	木實植う	人事
4809	明治36年	春の部	木実うゑて猿を愛する閑もあり	木實植う	人事
4810	明治36年	春の部	木実うゑてしばらく松に雨やどり	木實植う	人事
4811	明治36年	春の部	薬にもすとて木実のうゑあまり	木實植う	人事
4812	明治36年	春の部	林間に遍き日向木実うゑ	木實植う	人事
4813	明治36年	春の部	木実うゑて家に居れば鳥雲に	木實植う	人事
4814	明治36年	春の部	木実うゑる頭の上や春の雲	木實植う	人事
4815	明治36年	春の部	去年買ひし裏の禿山木実うゑ	木實植う	人事
4816	明治36年	春の部	木実うゑて立去る丘や百千鳥	木實植う	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4817	明治36年	春の部	柳鮠釣る人もなし都鳥	柳鮠	動物
4818	明治36年	春の部	柳鮠網にかゝやく春日哉	柳鮠	動物
4819	明治36年	春の部	をし去るや波暖き柳鮠	柳鮠	動物
4820	明治36年	春の部	古芝にひた釣上げぬ柳はえ	柳鮠	動物
4821	明治36年	春の部	柳はえかくるゝ程に水草生ふ	柳鮠	動物
4822	明治36年	春の部	草の芽の赤きも見えて柳はえ	柳鮠	動物
4823	明治36年	春の部	柳はえ柳の架の乱れかな	柳鮠	動物
4824	明治36年	春の部	柳はえ春水石をめぐる処	柳鮠	動物
4825	明治36年	春の部	柳はえ石垣存す膳所の城	柳鮠	動物
4826	明治36年	春の部	絲遊に驚きもするか柳はえ	柳鮠	動物
4827	明治36年	春の部	崖畑の花菜はすきて柳はえ	柳鮠	動物
4828	明治36年	春の部	春の夜毎薬湯に来る姊妹	春夜	時候
4829	明治36年	春の部	春の夜を皆酔臥しぬ天狗ども	春夜	時候
4830	明治36年	春の部	春の夜の厨は鱒に灯あきらか	春夜	時候
4831	明治36年	春の部	名香に酔ひて春の夜睡られず	春夜	時候
4832	明治36年	春の部	手枕に五衰の夢や夜半の春	春夜	時候
4833	明治36年	春の部	春の夜の物妬ましく明けにけり	春夜	時候
4834	明治36年	春の部	春の夜の情に堪へたり沈丁花	春夜	時候
4835	明治36年	春の部	羽衣をかへして宵の春さびし	春宵	時候
4836	明治36年	春の部	歌の主を春夜もすがら戀ひにけり	春夜	時候
4837	明治36年	春の部	舞衣に春の夜露を厭ひけり	春夜	時候
4838	明治36年	春の部	陽炎に臥猪の床を見たりけり	陽炎	天文
4839	明治36年	春の部	陽炎や其せんだんの二夕葉より	陽炎	天文
4840	明治36年	春の部	陽炎や山路ゆきゆく踏迷ひ	陽炎	天文
4841	明治36年	春の部	陽炎をかきみたしたる落花哉	陽炎	天文
4842	明治36年	春の部	陽炎や花流れ去り流れ来る	陽炎	天文
4843	明治36年	春の部	陽炎を拂って柳しだれけり	陽炎	天文
4844	明治36年	春の部	陽炎や茨の芽赤き藪の中	陽炎	天文
4845	明治36年	春の部	陽炎に五々のたんぽゝ黄なる哉	陽炎	天文
4846	明治36年	春の部	陽炎や断橋の影水にあり	陽炎	天文
4847	明治36年	春の部	芹の香に鶴の別を惜みけり	芹	植物
4848	明治36年	春の部	芹取て小松にはちく雫かな	芹	植物
4849	明治36年	春の部	下立ちて雪間の芹に小手寒し	芹	植物
4850	明治36年	春の部	初東風や朝戸にすつる芹の屑	芹	植物
4851	明治36年	春の部	芹取やえりに柳のまだ寒し	芹	植物
4852	明治36年	春の部	芹取るや短き芹は流れけり	芹	植物
4853	明治36年	春の部	芹つむで旦の丘に上りけり	芹	植物
4854	明治36年	春の部	芹採る子或は薄氷を涉りけり	芹	植物
4855	明治36年	春の部	根芹洗ふ更によき水湧くところ	芹	植物
4856	明治36年	春の部	春の雪きのふや採りし芹田哉	芹	植物
4857	明治36年	春の部	はづらひや芹田にぬれし帯の端	芹	植物
10593	明治36年	春の部	交る鳥いづれか歌をよまざりれり	交る鳥	動物
5230	明治37年	春の部	棧に陽炎もゆる雪消かな	陽炎	天文
5231	明治37年	春の部	ぬるむ水芹徒らに伸びまさり	水温む	地理
5232	明治37年	春の部	初雷に雁鳴き立つる水田哉	初雷	天文
5233	明治37年	春の部	錦織る女はらから寒食す	寒食	人事
5234	明治37年	春の部	笑ふ山麓の村の日の御旗	山笑う	地理
5235	明治37年	春の部	還暦の祝もすめり二ノ替	二の替	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5236	明治37年	春の部	山遊びわれに随ふ春の雲	春の雲	天文
5237	明治37年	春の部	其角忌を火燵の名残老破笠	其角忌	人事
5238	明治37年	春の部	其角忌の白髪かこちぬ秋色女	其角忌	人事
5239	明治37年	春の部	其角忌や美女花の如く半時庵	其角忌	人事
5240	明治37年	春の部	古酒ねだる佛しのべ梅の花	梅	植物
5241	明治37年	春の部	其角忌や柳をつかむ女の子	其角忌	人事
5243	明治37年	春の部	臙なり昔馬上の琵琶の主	臙	天文
5244	明治37年	春の部	詩に狂ふ僧や漫りに春を怨む	春	時候
5245	明治37年	春の部	彼岸すぎて本堂さむし造花	彼岸	人事
5246	明治37年	春の部	若芝や水に掃き出す芝の屑	若芝	植物
5247	明治37年	春の部	女若く芍薬の芽の如くなり	芍薬の芽	植物
5248	明治37年	春の部	日の光さし木の蔽もれにけり	挿木	人事
5249	明治37年	春の部	武夫の見るものにして鶏合	鶏合	人事
5250	明治37年	春の部	裏の田に田螺を見得て遊びけり	田螺	動物
5251	明治37年	春の部	國の乱れ山徒らに焼けにけり	野山焼	人事
5252	明治37年	春の部	山焼いて怪まれけり旅の僧	野山焼	人事
5253	明治37年	春の部	林間に山やきし子等遊びけり	野山焼	人事
5254	明治37年	春の部	片栗の花盛りなり焼かぬ山	片栗の花	植物
5255	明治37年	春の部	宵に見る山火や旅の語草	野山焼	人事
5256	明治37年	春の部	轉や藪をめくらす水たまり	轉	動物
5257	明治37年	春の部	炉塞きて夕飯心細かりし	爐塞	人事
5258	明治37年	春の部	鮒鱈少年行を歌ひけり	鮒鱈	人事
5260	明治37年	春の部	梨の花ハ手車空しく過ぎにけり	梨の花	植物
5262	明治37年	春の部	幼稚園風の日の柳桜かな	雑	雑
5263	明治37年	春の部	春の日の玉を溶かして温泉哉	春日	時候
5264	明治37年	春の部	春の村温泉の湧く所見であるく	春	時候
5265	明治37年	春の部	春の雲湯の湧く山を流れけり	春の雲	天文
5266	明治37年	春の部	湯治人河原をあるく柳かな	柳	植物
5267	明治37年	春の部	鳥雲に入て靈泉湧き止まず	鳥入雲	動物
5269	明治37年	春の部	竹落葉落楝舎の狸追はれけり	竹落葉	植物
5270	明治37年	春の部	古塚のほとり水澄む竹落葉	竹落葉	植物
5271	明治37年	春の部	花を見て夕に帰る竹落葉	竹落葉	植物
5272	明治37年	春の部	竹落葉把栗帰らぬ寺淋し	竹落葉	植物
5273	明治37年	春の部	若鮎の値を問ふや竹落葉	竹落葉	植物
5274	明治37年	春の部	針供養浪々の夫を恨みけり	針供養	人事
5275	明治37年	春の部	御忌の雨寺の白梅乱れ落つ	御忌	人事
5276	明治37年	春の部	冴返る夜店萬年青に人少な	冴返	時候
5277	明治37年	春の部	入來の敵に警む冴返り	冴返	時候
5278	明治37年	春の部	踏青の人驚ける狼煙哉	踏青	人事
5279	明治37年	春の部	人山に入りて帰らぬ日永哉	日永	時候
5280	明治37年	春の部	千羊皮客に頌てり桃の花	桃	植物
5281	明治37年	春の部	二ノ替鄙の知人連立ちぬ	二の替	人事
5282	明治37年	春の部	貧にして人に疎きころ梅の花	梅	植物
5283	明治37年	春の部	陋巷の梅顔セを照しけり	梅	植物
5284	明治37年	春の部	鴨の背に雪消の水の光哉	雪解	地理
5285	明治37年	春の部	白梅ややれつくしたる一狐裘	梅	植物
5286	明治37年	春の部	古文辞に人を老いしむ梅の花	梅	植物
5287	明治37年	春の部	二ノ替麦ふむ人をさそひけり	二の替	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5288	明治37年	春の部	二ノ替なほ輝の浪花人	二の替	人事
5289	明治37年	春の部	二ノ替蕨入もせで日立ちけり	二の替	人事
5290	明治37年	春の部	雪なだれ崖の小家に人住めり	雪崩	地理
5291	明治37年	春の部	雪に積む材木崩る雪消哉	雪解	地理
5292	明治37年	春の部	風引いて粥のあはしや梅の花	梅	植物
5293	明治37年	春の部	人毎に梅さげ返る熟舎哉	梅	植物
5294	明治37年	春の部	野路の梅耕すは我が徒よ	梅	植物
5295	明治37年	春の部	白梅や住みもすてざる草の宿	梅	植物
5296	明治37年	春の部	折枝ふむ松の山路の雪消哉	雪解	地理
5297	明治37年	春の部	下蒨の皆庭鳥にはまれけり	草蒨	植物
5298	明治37年	春の部	陽炎の湯の村行けば湯の香哉	陽炎	天文
5299	明治37年	春の部	湯の里に通ふ小橋や春の人	春	時候
5300	明治37年	春の部	徒らに湯のわく処つばめ哉	燕	動物
5301	明治37年	春の部	陽炎や何萬人が呼ばふ声	陽炎	天文
5302	明治37年	春の部	湯にこもる女さそひつ春の山	春の山	地理
5303	明治37年	春の部	湯の村の見る物柳緑也	柳	植物
5304	明治37年	春の部	かしこみて見上ぐれば鳥雲に入る	鳥入雲	動物
5305	明治37年	春の部	花に酔ふてかゞやく顔や水鏡	花	植物
5306	明治37年	春の部	若芝を歩み去りたる女かな	若芝	植物
5307	明治37年	春の部	花ふゞき音楽近く起りけり	花	植物
5308	明治37年	春の部	ふらこゝや祭にゆかぬ兒一人	鞆	人事
5309	明治37年	春の部	目さしやく隣ありけり宵の春	目刺	人事
5310	明治37年	春の部	目刺干す日頃桜蚊生れけり	目刺	人事
5311	明治37年	春の部	目刺干す磯村花もなかりけり	目刺	人事
5312	明治37年	春の部	目刺焼く宿の畑や春の雨	目刺	人事
5313	明治37年	春の部	家に居て目さし作りぬ濱日和	目刺	人事
5314	明治37年	春の部	のり干してめざしもつくる女多く	目刺	人事
5315	明治37年	春の部	花に來る蜂しば / \ や目さしほす	目刺	人事
5316	明治37年	春の部	炭焼の眺め桜の古木哉	櫻	植物
5317	明治37年	春の部	帰省して産土神詣で遅桜	櫻	植物
5318	明治37年	春の部	夜桜や木蔭より出る兒一人	櫻	植物
5319	明治37年	春の部	桜狩法主は若くおはしけり	花見	人事
5320	明治37年	春の部	小高みに花を隔つや吉水院	花	植物
5321	明治37年	春の部	住みすてず籬落浅きに桜哉	櫻	植物
5322	明治37年	春の部	満開の桜にあけし朝戸哉	櫻	植物
5323	明治37年	春の部	暖き日中野埃立つ見えて	暖	時候
5324	明治37年	春の部	雨の音暖き宵の雨の中	暖	時候
5325	明治37年	春の部	野遊の赤毛布敷く暖き	野遊	人事
5326	明治37年	春の部	背にぬき日ざし蕙帆つゞりけり	暖	時候
5327	明治37年	春の部	潤や社日の雨のあたゝかな	社日	時候
5328	明治37年	春の部	みづ / \ し玉籬に添ふ花の色	花	植物
5605	明治38年	春の部	きさらぎの花に逢ひたる命かな	如月	時候
5606	明治38年	春の部	春浅き宿や紀ノ女の歌反古	春浅し	時候
5607	明治38年	春の部	涅槃會に活潑々の羅漢かな	涅槃會	人事
5608	明治38年	春の部	雉子打って立つや海山夕ぐもり	雉子	動物
5609	明治38年	春の部	雪國の雪に壓されて木の芽哉	木の芽	植物
5610	明治38年	春の部	野火燃えて金澤の柵はなかりけり	野山焼	人事
5611	明治38年	春の部	偷見る妹が草紙や宵の春	春宵	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5612	明治38年	春の部	花に雨家々の秋千ぬれにけり	鞦韆	人事
5613	明治38年	春の部	春古き嵯峨の野川や水ぬるむ	水温む	地理
5614	明治38年	春の部	氷融けて柳の渡し猶寒し	氷解	地理
5615	明治38年	春の部	此頃の夜は朧なり歌かるた	朧	天文
5616	明治38年	春の部	槽古し雪解の頃の山の宿	雪解	地理
5617	明治38年	春の部	澤畔や雪解の頃の春を佐ふ	雪解	地理
5618	明治38年	春の部	片栗の花日に匂ふ雪解かな	雪解	地理
5619	明治38年	春の部	乱山の先を争ふ雪解かな	雪解	地理
5620	明治38年	春の部	鵠の昨日や去りし雪解かな	雪解	地理
5621	明治38年	春の部	鱒に網川波ゆらぐ春日かな	鱒	動物
5622	明治38年	春の部	猫の子ら愁人の裳をかゝまくす	猫の子	動物
5623	明治38年	春の部	摘みこぼす草や種井に満つる水	種井	人事
5624	明治38年	春の部	鶯を深く蔵しぬ竹の秋	竹の秋	植物
5625	明治38年	春の部	春惜む文細々と書かれけり	春惜む	時候
5626	明治38年	春の部	曲水に妹のからうた妬しき	曲水	人事
5627	明治38年	春の部	耕して落花の水を澆きけり	耕	人事
5628	明治38年	春の部	樂や老いて耕す帝の田	耕	人事
5629	明治38年	春の部	耕すや鄙人は知らず箕子の國	耕	人事
5630	明治38年	春の部	花に簞耕すわざをまねびけり	耕	人事
5631	明治38年	春の部	梅の花よき墨つくる家なりけり	梅	植物
5632	明治38年	春の部	水上は五十鈴の春や苗代田	苗代	地理
5633	明治38年	春の部	苗代の春にほとりす小百姓	苗代	地理
5634	明治38年	春の部	苗代や鄙人舁きゆく古神輿	苗代	地理
5635	明治38年	春の部	苗代の参差と山べ春めきぬ	苗代	地理
5636	明治38年	春の部	苗代に徑よりすや宵あるき	苗代	地理
5637	明治38年	春の部	初雷に天津祝詞のかしこさよ	初雷	天文
5638	明治38年	春の部	残雪や古松が根の日の光	残雪	地理
5639	明治38年	春の部	残雪や斧も入れざる松林	残雪	地理
5640	明治38年	春の部	残雪や小松がうれの日の光	残雪	地理
5641	明治38年	春の部	炉塞や草の芽くるゝ隣の子	爐塞	人事
5642	明治38年	春の部	山笑ふ旅路の果となりけり	山笑う	地理
5643	明治38年	春の部	釈奠の人遊ぶ松の緑かな	釋奠	人事
5644	明治38年	春の部	古道人行くこと少れに百千鳥	百千鳥	動物
5645	明治38年	春の部	小弓引艶なる人を妬みけり	小弓引	人事
5646	明治38年	春の部	梅の花白きにたへず鶴帰る	梅	植物
5647	明治38年	春の部	繪踏して去る結髪の壮士哉	繪踏	人事
5648	明治38年	春の部	一人子を掌裡の珠や雛まつり	雛祭	人事
5649	明治38年	春の部	耕や夜は玩ぶ古雛	雛祭	人事
5650	明治38年	春の部	ふらここの影に惑へる子猫哉	猫の子	動物
5651	明治38年	春の部	紫の朱のと鳥のつるみけり	鳥交る	動物
5652	明治38年	春の部	詩を焚くや春雁雲に入る夕	春雁	動物
5653	明治38年	春の部	虎杖や大澤の鳥雲に入る	鳥入雲	動物
5654	明治38年	春の部	鳥雲に入て枯木蘂あり	鳥入雲	動物
5959	明治39年	春の部	こさ吹くや返照雲の山に満つ	霾	天文
5960	明治39年	春の部	黄梅の家を記得す故園哉	黄梅	植物
5961	明治39年	春の部	こさ鳴って東風ふきぬけり枯木立	霾	天文
5962	明治39年	春の部	こさふけば寒霞日暮を靡きけり	霾	天文
5964	明治39年	春の部	氷に上る魚に驚く聖かな	魚氷に上る	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5965	明治39年	春の部	氷に上る魚や瀬の神淵の神	魚氷に上る	時候
5966	明治39年	春の部	羞らくは氷に上る魚の糞を見る	魚氷に上る	時候
5967	明治39年	春の部	國風は氷に上る魚の樂か	魚氷に上る	時候
5968	明治39年	春の部	遊人や魚氷に上る金閣寺	魚氷に上る	時候
5969	明治39年	春の部	春寒の凝りてや露の臺青し	露の臺	植物
5970	明治39年	春の部	滝水に眉目痛しや冴返り	冴返	時候
5971	明治39年	春の部	夜奔る卓文君や猫の戀	猫の戀	動物
5972	明治39年	春の部	耳底にひゞく獅子吼や涅槃像	涅槃會	人事
5973	明治39年	春の部	玉くしけ開かんと欲す春の宵	春宵	時候
5974	明治39年	春の部	王城を南に去るや一ノ午	初午	人事
5975	明治39年	春の部	經卷と藥炉と彼岸七日哉	彼岸	人事
5976	明治39年	春の部	おぼろかに夜はなりゆくや春の雪	春雪	天文
5977	明治39年	春の部	荒牧や片へはつもる春の雪	春雪	天文
5978	明治39年	春の部	蟄虫は目さめてゐるか春の雪	春雪	天文
5979	明治39年	春の部	若芝や撞鐘を距る十歩程	若芝	植物
5980	明治39年	春の部	若芝の侵さんとする接木かな	若芝	植物
5981	明治39年	春の部	若芝にホテルを出る日今哉	若芝	植物
5982	明治39年	春の部	若芝に門開きけり植物園	若芝	植物
5983	明治39年	春の部	芝萌ゆるぢゞが魚釣処かな	若芝	植物
5984	明治39年	春の部	督郵のこの山越えし雪解かな	雪解	地理
5985	明治39年	春の部	草餅に妻が知らざる苦吟かな	草餅	人事
5986	明治39年	春の部	春の霜花屋が暁の灯かな	春霜	天文
5987	明治39年	春の部	雉子鳴くや草をなびかす李將軍	雉子	動物
5988	明治39年	春の部	柳伐て今年燕を淋しうす	燕	動物
5989	明治39年	春の部	長閑さの人に讀ましむ鐘の銘	長閑	時候
5990	明治39年	春の部	つくば過ぎて幾夜か寐つる啼雲雀	雲雀	動物
5992	明治39年	春の部	皆化して蜂と飛去る百千句	蜂	動物
5993	明治39年	春の部	水は温む野芝居ありし辺り哉	水温む	地理
5994	明治39年	春の部	水温む船路を人と別れけり	水温む	地理
5995	明治39年	春の部	鬼棲まずなりて山川ぬるみけり	水温む	地理
5996	明治39年	春の部	水温む庭の景色や閨の昼	水温む	地理
5997	明治39年	春の部	水温み菜の花咲かぬ畑もなし	水温む	地理
5998	明治39年	春の部	温む水春や昔の春ならぬ	水温む	地理
5999	明治39年	春の部	懐旧の水を探れば水温む	水温む	地理
6000	明治39年	春の部	山人は正に睡れり水温む	水温む	地理
6001	明治39年	春の部	帛を衣て春の寒さを恐れけり	春寒	時候
6002	明治39年	春の部	東より西に過ぎたる田螺かな	田螺	動物
6003	明治39年	春の部	學人が眼睛萌ゆる草に落つ	草萌	植物
6004	明治39年	春の部	梅咲いて鼻孔に春の寒哉	梅	植物
6005	明治39年	春の部	客曰く眉毛生ぜり猫が戀	猫の戀	動物
6006	明治39年	春の部	むつの牧東に開け春の海	春の海	地理
6007	明治39年	春の部	繪踏する九州一の美人かな	繪踏	人事
6008	明治39年	春の部	凍解くるほとり八ツ手の古葉哉	凍解	地理
6009	明治39年	春の部	連綿と柳の村や春の海	春の海	地理
6010	明治39年	春の部	恙なしと文す如月半ばかり	如月	時候
6011	明治39年	春の部	寒食や桃に小暗き民の家	寒食	人事
6012	明治39年	春の部	崢嶸と聳ゆる山や帰る雁	帰る雁	動物
6013	明治39年	春の部	春の雁瘦せて湖水に映りけり	春雁	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6014	明治39年	春の部	珊瑚の鞭雁の別を送りけり	帰る雁	動物
6016	明治39年	春の部	梅の花咳唾の珠を偲びけり	梅	植物
6018	明治39年	春の部	雛もなし汝を桃の花の顔	雛	人事
6019	明治39年	春の部	山買ふや山の境の春の水	春の水	地理
6020	明治39年	春の部	木実うゑんと思ふあたりをありきけり	木實植う	人事
6021	明治39年	春の部	田螺賣桃李のこみち戻りけり	田螺	動物
6022	明治39年	春の部	若もゆる長信宮の祠かな	草萌	植物
6023	明治39年	春の部	一ト列に挿しゝ塘の木芽かな	木の芽	植物
6024	明治39年	春の部	桜狩汐干狩より尚遠し	花見	人事
6025	明治39年	春の部	垣を結ふ大根の花の主かな	大根の花	植物
6026	明治39年	春の部	富めるもの嘲けられけり桜鯛	桜鯛	動物
6027	明治39年	春の部	物皆の処を得たり鳥交る	鳥交る	動物
6028	明治39年	春の部	耕して釣徒と暮を帰りけり	耕	人事
6029	明治39年	春の部	山をやく夕やうはゞみ慟哭す	野山焼	人事
6030	明治39年	春の部	花をまつ我に桜蚊飛来る	春の蚊	動物
6031	明治39年	春の部	鯉賣る軒端や春の虫がとぶ	鯉	動物
6032	明治39年	春の部	連翹や花に突入る牛の角	連翹	植物
6033	明治39年	春の部	海棠に狂杜が才を試みん	海棠	植物
6034	明治39年	春の部	嘲や我は飯喰ふ其角の日	其角忌	人事
6035	明治39年	春の部	夏近し賣残したる花の酒	夏近し	時候
6036	明治39年	春の部	むざ／＼と馬に喰はれぬ萩若葉	萩若葉	植物
6037	明治39年	春の部	晝を睡る書楼の人や松の花	松の花	植物
6038	明治39年	春の部	海苔の香に巖を思ふ雄鹿の宿	海苔	植物
6039	明治39年	春の部	菊根分桜頻りに散る日哉	菊根分	人事
6040	明治39年	春の部	雲雀揚がる武藏の國の眞中哉	雲雀	動物
6041	明治39年	春の部	尺八や宵をほのめく積塔會	積塔會	人事
6042	明治39年	春の部	頽れたるかまとや庵の三月尽	三月尽	時候
6043	明治39年	春の部	ゆく春の茶の木がくれや人遊ぶ	行春	時候
6420	明治40年	春の部	人とりしなだれの雪の残りけり	残雪	地理
6421	明治40年	春の部	東風吹いて山紫と成にけり	東風	天文
6422	明治40年	春の部	凧の尾の空にからまる物もなし	凧	人事
6423	明治40年	春の部	灯の花に尚疑ひや春の宵	春宵	時候
6424	明治40年	春の部	此心竟に動かず梅の花	梅	植物
6425	明治40年	春の部	梅白し弊履を棄てゝ人の去る	梅	植物
6426	明治40年	春の部	かれ／＼て一樹となりぬ梅の花	梅	植物
6427	明治40年	春の部	古梅に廬を結ぶ花を省みず	梅	植物
6428	明治40年	春の部	筆陣や梅に争ふ儒と釈と	梅	植物
6429	明治40年	春の部	家貧しければ梅いよ／＼白し	梅	植物
6430	明治40年	春の部	雪の下の地を見る頃や冴返る	冴返	時候
6431	明治40年	春の部	鳥雲に入るや人待つこと久し	鳥入雲	動物
6432	明治40年	春の部	海苔やくや海苔とる海の目に浮	海苔	植物
6433	明治40年	春の部	凶年の落穂悲む田打かな	田打ち	人事
6434	明治40年	春の部	十人の田打必ず愚なるあり	田打ち	人事
6435	明治40年	春の部	田に田打常平倉の屋根に鶏	田打ち	人事
6436	明治40年	春の部	畑打が陳情表の話かな	畑打ち	人事
6437	明治40年	春の部	畑打に出でまくとすや朋来る	畑打ち	人事
6438	明治40年	春の部	古葉くゞる林中の水温みけり	水温む	地理
6439	明治40年	春の部	両三家めぐり来て里の水ぬるむ	水温む	地理

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6440	明治40年	春の部	温む水に心驚く帰雁かな	水温む	地理
6441	明治40年	春の部	日々に伸びまさる菜や水ぬるむ	水温む	地理
6442	明治40年	春の部	伐尽す柴山の水温みけり	水温む	地理
6443	明治40年	春の部	春浅き宿や乏しき深山柴	春浅し	時候
6444	明治40年	春の部	戀猫の爪恐ろしく思ひけり	猫の戀	動物
6446	明治40年	春の部	天氣地氣啓蟄の日と成にけり	啓蟄	時候
6447	明治40年	春の部	芋々の草綿々のひばりかな	雲雀	動物
6448	明治40年	春の部	雪残る山見てひばり落る哉	雲雀	動物
6449	明治40年	春の部	何氏が発祥の地や雲雀なく	雲雀	動物
6450	明治40年	春の部	遠く遊ぶ牧守が子にひばり哉	雲雀	動物
6451	明治40年	春の部	ひばり落ついつこ雲雀の罅かな	雲雀	動物
6452	明治40年	春の部	西行がうしろに揚るひばり哉	雲雀	動物
6453	明治40年	春の部	ひばり野や我が見つゝ行く歌枕	雲雀	動物
6454	明治40年	春の部	畑あればひばり啼く川の中洲かな	雲雀	動物
6455	明治40年	春の部	ひばりより下に春く夕日かな	雲雀	動物
6456	明治40年	春の部	夕霞夕雲雀水流れけり	雲雀	動物
6457	明治40年	春の部	あき人は黄金もて梅を購へり	梅	植物
6458	明治40年	春の部	梅さげて人通りけり古本屋	梅	植物
6459	明治40年	春の部	北海の雪の便りや梅の花	梅	植物
6460	明治40年	春の部	種まいて暮るゝおそきを覚えけり	種蒔	人事
6461	明治40年	春の部	木の実植うる翁や花に誘はれず	木實植う	人事
6462	明治40年	春の部	木の実植ゑよ / \ と人のすゝめ哉	木實植う	人事
6463	明治40年	春の部	鶏合すんで花洛のくもりかな	鶏合	人事
6464	明治40年	春の部	花の歌雁の別に清らなる	帰雁	動物
6465	明治40年	春の部	長閑さに桶の田螺を算へけり	田螺	動物
6466	明治40年	春の部	踏青のいつこの天や龍登る	龍登天	動物
6467	明治40年	春の部	芝に居る小弓の友や萩若葉	萩若葉	植物
6468	明治40年	春の部	洛中は早も日今や萩若葉	萩若葉	植物
6469	明治40年	春の部	萩若葉野路に相逢ふ春の人	萩若葉	植物
6470	明治40年	春の部	萩若葉詞人素より多病也	萩若葉	植物
6471	明治40年	春の部	人多情萩の若葉に苦吟かな	萩若葉	植物
6472	明治40年	春の部	胸中の磊塊蜂の巢に似たり	蜂の巢	動物
6473	明治40年	春の部	あるは蜂の趣を見る古人の句	蜂	動物
6474	明治40年	春の部	蜂巢ふ茨を剪って棄てにけり	蜂の巢	動物
6475	明治40年	春の部	大徳の蜂にさゝれずおはしけり	蜂	動物
6476	明治40年	春の部	小坊主が蜂を逃げゆく落花哉	蜂	動物
10657	明治40年	春の部	此濱の鯨少し冴え返り	鯨	動物
6759	明治41年	春の部	草の舎に隠れもなしや風絵かく	風	人事
6760	明治41年	春の部	時を得て蠢くものや水温む	水温む	地理
6761	明治41年	春の部	初雷や天下の句風新たなり	初雷	天文
6762	明治41年	春の部	初雷や勃然として臨池の興	初雷	天文
6763	明治41年	春の部	佛名に救はるゝ身や鐘かすむ	霞	天文
6764	明治41年	春の部	家居皆古風な里や鐘霞む	霞	天文
6765	明治41年	春の部	丘壑の情放散や鐘かすむ	霞	天文
6766	明治41年	春の部	一飯の供養に足るや鐘霞む	霞	天文
6767	明治41年	春の部	奥人の訥なる話鐘かすむ	霞	天文
6768	明治41年	春の部	鐘かすむ國土一草一伽藍	霞	天文
6769	明治41年	春の部	山河の岸うつ波や雉子とぶ	雉子	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6770	明治41年	春の部	拓き終へし地を見取図や日の永き	日永	時候
6771	明治41年	春の部	海棠や酒醒めて晝の衾あり	海棠	植物
6772	明治41年	春の部	望夫石ありし口碑や春の潮	春の潮	地理
6773	明治41年	春の部	魚戸蟹舎雁行く景と見えにけり	帰る雁	動物
6774	明治41年	春の部	異を樹つるにしもあらねど木芽和	木芽和	人事
6775	明治41年	春の部	野遊の荷物にしたり筆硯	野遊	人事
6776	明治41年	春の部	野遊の此道よりす柳かな	野遊	人事
6777	明治41年	春の部	野遊にかの道人をさそひけり	野遊	人事
6778	明治41年	春の部	野遊の沼見めぐりぬ男衆	野遊	人事
6779	明治41年	春の部	野遊や路に詣づる神社	野遊	人事
6780	明治41年	春の部	野遊や人に秘めたる歌袋	野遊	人事
6781	明治41年	春の部	野遊に弓引く男子戀にけり	野遊	人事
6782	明治41年	春の部	野遊やげん / \ 尽きて大堰川	野遊	人事
6783	明治41年	春の部	野遊の雪白き山を畏れけり	野遊	人事
6784	明治41年	春の部	雨けぶる日や野遊の序を草す	野遊	人事
6785	明治41年	春の部	褒貶に耳傾けず干鱈買ふ	干鱈	人事
6786	明治41年	春の部	花落ちて辛夷に実なし干鱈さく	干鱈	人事
6787	明治41年	春の部	棒鱈の荷も片づきぬ初つばめ	燕	動物
6788	明治41年	春の部	炉火灰となりて鶯庭に来る	鶯	動物
6789	明治41年	春の部	忽然と鶯きくや著作堂	鶯	動物
6790	明治41年	春の部	谷水の窮み鶯遷りけり	鶯	動物
6791	明治41年	春の部	鶯や木履の音も例の刻	鶯	動物
6792	明治41年	春の部	崇なき伐木や鶯の啼く	鶯	動物
6793	明治41年	春の部	蘂の瑞の木原や兔の子	蘂	植物
6794	明治41年	春の部	蘂の藜々として春の水	蘂	植物
6795	明治41年	春の部	蘂も女の丈けに柳かな	蘂	植物
6796	明治41年	春の部	古梅の終に蘂なかりけり	蘂	植物
6797	明治41年	春の部	蘂も遺さずと斧揮ひけり	蘂	植物
6798	明治41年	春の部	花さくと魂まねげ帰る雁	帰る雁	動物
6799	明治41年	春の部	五文たこ三文たこと揚りけり	凧	人事
6800	明治41年	春の部	人鮎を汲む鳥花を喰ふ日哉	鮎汲み	人事
6801	明治41年	春の部	鮎の子や御幸の沙汰もほのかにて	小鮎	動物
6802	明治41年	春の部	餌をくふとしもなく小鮎つられけり	小鮎	動物
6803	明治41年	春の部	鮎汲を見て小謡や桜川	鮎汲み	人事
6804	明治41年	春の部	貫之が假名ふみに入る小鮎哉	小鮎	動物
6805	明治41年	春の部	初雷や腹案の句の一頓挫	初雷	天文
6806	明治41年	春の部	汲鮎を三ツに分つや風光る	鮎汲み	人事
6807	明治41年	春の部	薪とる山賤にして鮎を汲む	鮎汲み	人事
6808	明治41年	春の部	春惜む心に鮎を汲にけり	鮎汲み	人事
6809	明治41年	春の部	若鮎に恋々として都鳥	小鮎	動物
6810	明治41年	春の部	小鮎釣に上ると雨日閑話哉	小鮎	動物
6811	明治41年	春の部	兎狩りし岨も平も雪解かな	雪解	地理
6812	明治41年	春の部	官山に人入る遅き雪げかな	雪解	地理
6813	明治41年	春の部	水の辺りありく畑地の雪げ哉	雪解	地理
6814	明治41年	春の部	伐出しの節木残りて雪解哉	雪解	地理
6815	明治41年	春の部	市も立つ山の驛の雪解哉	雪解	地理
6816	明治41年	春の部	老いたるを牽いて馬耕や辛夷咲く	辛夷	植物
6817	明治41年	春の部	荒蕪地に鋤入式や辛夷さく	辛夷	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6818	明治41年	春の部	山僧愚なれど俗ならず辛夷さく	辛夷	植物
6819	明治41年	春の部	廃したる炭がま興す辛夷哉	辛夷	植物
6820	明治41年	春の部	ありなしの落魄や門の古辛夷	辛夷	植物
6821	明治41年	春の部	法事過ぎて人に分ちぬ漆種	種物	人事
6822	明治41年	春の部	隣人に種物惜むそしりあり	種物	人事
6823	明治41年	春の部	しらべ洩の種や橡の実一吠	種物	人事
6824	明治41年	春の部	種物の事方丈と挨拶す	種物	人事
6825	明治41年	春の部	雨讀の閑種物の名を想出づ	種物	人事
6826	明治41年	春の部	山僧の大愚辛夷の花も知らず	辛夷	植物
6827	明治41年	春の部	山吹や水に及ばぬ野火の痕	山吹	植物
6828	明治41年	春の部	山吹や寺に故実の經供養	山吹	植物
6829	明治41年	春の部	山吹や馬はあれども伊賀吟行	山吹	植物
6830	明治41年	春の部	山吹や執筆中の五元集	山吹	植物
6831	明治41年	春の部	長者屋しき山吹さくを古跡哉	山吹	植物
6832	明治41年	春の部	青き踏む貴妃を扶けて遅れけり	踏青	人事
6833	明治41年	春の部	踏青の水に逢うて且つ迂回せり	踏青	人事
6834	明治41年	春の部	踏青や閑雲の景野鶴の情	踏青	人事
6835	明治41年	春の部	踏青の叉路や文武の子	踏青	人事
6836	明治41年	春の部	雪の山の一角も見て青き踏む	踏青	人事
6838	明治41年	春の部	蝦夷が子の摘み残しけむ露のとう	露の臺	植物
7036	明治42年	春の部	拓本の大きさも希有梅の花	梅	植物
7037	明治42年	春の部	早起の箴奴も写す梅の花	梅	植物
7038	明治42年	春の部	澗黙も一家の規模や梅の花	梅	植物
7039	明治42年	春の部	朝奇晩奇只主人知る梅の花	梅	植物
7040	明治42年	春の部	三冬に研り残す朱や梅の花	梅	植物
7041	明治42年	春の部	句意画意のいつこ融会や梅一枝	梅	植物
7042	明治42年	春の部	蹇の僧猶住めり軒の梅	梅	植物
7043	明治42年	春の部	橋架す奇風遣れり峽の梅	梅	植物
7044	明治42年	春の部	飼鶏の同じ羽色や梅の宿	梅	植物
7045	明治42年	春の部	飯喰へど鄙しとなさず梅の主	梅	植物
7046	明治42年	春の部	閣成て記を作らしむ雉子の声	雉子	動物
7047	明治42年	春の部	三日つゞく土豪の宴雉子啼く	雉子	動物
7048	明治42年	春の部	雉子撃って新妻故に帰りけり	雉子	動物
7049	明治42年	春の部	雁風呂や今様の美女三五人	雁風呂	人事
7050	明治42年	春の部	炉塞や耳目に潜む風邪の氣	爐塞	人事
7051	明治42年	春の部	餅賣と約束事や麦を踏む	麥踏	人事
7052	明治42年	春の部	流行唄村にも流行る雪げかな	雪解	地理
7053	明治42年	春の部	本草も我一代や二日灸	二日灸	人事
7054	明治42年	春の部	溶き分けて浴き絵具や山笑ふ	山笑う	地理
7055	明治42年	春の部	手をあげて乳母言傳や山笑ふ	山笑う	地理
7057	明治42年	春の部	城の窓麦の青きを望みけり	麦青む	植物
7058	明治42年	春の部	青麦に澄みぬきのふの雪げ水	麦青む	植物
7059	明治42年	春の部	青麦に水鳥の目のかすみかな	麦青む	植物
7060	明治42年	春の部	事なきにきづく用意や麦青し	麦青む	植物
7061	明治42年	春の部	神宮の手斧の音や春の麦	麦青む	植物
7062	明治42年	春の部	城きづく坐上図解や大石忌	大石忌	人事
7063	明治42年	春の部	自他心事棋子黑白や大石忌	大石忌	人事
7064	明治42年	春の部	眉目相照す花あり大石忌	大石忌	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7065	明治42年	春の部	編笠に軽重の論や大石忌	大石忌	人事
7066	明治42年	春の部	文の波瀾帰雁の事や大石忌	大石忌	人事
7067	明治42年	春の部	蛙子や臨池一日一字づゝ	蝌蚪	動物
7068	明治42年	春の部	諳ンずる長恨歌詞や半仙戯	鞦韆	人事
7069	明治42年	春の部	菊根分終りて次韻却寄哉	菊根分	人事
7070	明治42年	春の部	詠ミ歌の贈答體に遅日哉	遅日	時候
7071	明治42年	春の部	家富めば古式すたれぬ竹の秋	竹の秋	植物
7072	明治42年	春の部	宝印と縛印と彼岸團子哉	彼岸	人事
7073	明治42年	春の部	眉剃りて彼岸の花につとひけり	彼岸	人事
7074	明治42年	春の部	湾をなすところ丘あり春の海	春の海	地理
7075	明治42年	春の部	豫め定まる帰期や春の海	春の海	地理
7076	明治42年	春の部	花衣着ぬきの冷や田螺和	田螺和	人事
7077	明治42年	春の部	水城跡石高々と田螺かな	田螺	動物
7078	明治42年	春の部	人送り出でし話頭の田螺かな	田螺	動物
7079	明治42年	春の部	民の疾苦田螺の事も間にけり	田螺	動物
7080	明治42年	春の部	岨を負ふ家居田螺も賣に来る	田螺	動物
7082	明治42年	春の部	鹿放つよしを庭見の麗かに	麗	時候
7083	明治42年	春の部	湖の雑魚煮れば湖草も麗かに	麗	時候
7084	明治42年	春の部	馬士よべどあらず道もせにちる李	李の花	植物
7085	明治42年	春の部	草つむも駐蹕の地のほとり哉	摘草	人事
7086	明治42年	春の部	湖の魚珍らかに見て春惜む人	春惜む	時候
7087	明治42年	春の部	又一人の弟子遠島や暮るゝ春	暮春	時候
7088	明治42年	春の部	醍醐寺の埒の大破も暮るゝ春	暮春	時候
7089	明治42年	春の部	答うつ刑も昔に春暮れぬ	暮春	時候
7090	明治42年	春の部	奥書も断簡の部や春暮るゝ	暮春	時候
7091	明治42年	春の部	子に似ぬ子と思寐や暮るゝ春	暮春	時候
7092	明治42年	春の部	簀の上の森吉の雪や苗代田	苗代	地理
7093	明治42年	春の部	苗代も見て後園日に渉る	苗代	地理
7094	明治42年	春の部	苗代の萌ゆるや古碑の苔も掃く	苗代	地理
7095	明治42年	春の部	苗代やけふ造林の山を出る	苗代	地理
7096	明治42年	春の部	風除けの林の禽や苗代田	苗代	地理
7097	明治42年	春の部	山吹に短き悔いぬ舟の棹	山吹	植物
7098	明治42年	春の部	山吹や馬腹に及ぶ溢れ水	山吹	植物
7099	明治42年	春の部	山吹に日和見鴉とも見ゆる	山吹	植物
7100	明治42年	春の部	山吹の山孤峭なる身冷哉	山吹	植物
7101	明治42年	春の部	山吹や岩魚捕る約に人をまつ	山吹	植物
7102	明治42年	春の部	境論の立別れゆくつゝじかな	躑躅	植物
7103	明治42年	春の部	高山を遥拜の野のつゝじ哉	躑躅	植物
7104	明治42年	春の部	帽子手巾つゝじ野深く人遊ぶ	躑躅	植物
7105	明治42年	春の部	水飲みに下るもつゝじがくれかな	躑躅	植物
7106	明治42年	春の部	つゝじ野にいつこ来て去る奔馬哉	躑躅	植物
7203	明治43年	春の部	二三子茲に弓勢見よや梅の花	梅	植物
7204	明治43年	春の部	立春大吉堂に八十八の人	立春	時候
7205	明治43年	春の部	日本刀の歌傳唱や寒食す	寒食	人事
7206	明治43年	春の部	木隠れし君を二度半仙戯	鞦韆	人事
7207	明治43年	春の部	秋千に酔発す花の雪ちるに	鞦韆	人事
7208	明治43年	春の部	ふらこゝに見る店頭の餅白き	鞦韆	人事
7209	明治43年	春の部	一山紫一水明や秋千に	鞦韆	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7210	明治43年	春の部	あなかしこ戀猫の句を扇面に	猫の戀	動物
7211	明治43年	春の部	遠忌果てゝ氣安覚えぬ猫の戀	猫の戀	動物
7212	明治43年	春の部	雪汁に渴きあさまし猫の夫	猫の戀	動物
7213	明治43年	春の部	作家手段粉黛の字や猫の妻	猫の戀	動物
7214	明治43年	春の部	雪類跡に三家挙るや猫の恋	猫の戀	動物
7215	明治43年	春の部	馬も野へ牛も野へ誰ぞふらこゝに	鞦韆	人事
7216	明治43年	春の部	ふらこゝに上る鶏鳴吠の徒	鞦韆	人事
7217	明治43年	春の部	字句を求めて春雷飛と得たりけり	春雷	天文
7218	明治43年	春の部	寤寐に之を求むれど得ず水温む	水温む	地理
7219	明治43年	春の部	仿古詩賤歡会の桃と紅に	桃	植物
7220	明治43年	春の部	人を送る詩の一格や春の霜	春霜	天文
7221	明治43年	春の部	画眉郎の嘲解かむ長閑さに	長閑	時候
7222	明治43年	春の部	古人既に山相論や里長閑	長閑	時候
7223	明治43年	春の部	暗算にこの魯鈍さよ宵長閑	長閑	時候
7224	明治43年	春の部	猫の子等の雌にのみ名づく長閑也	長閑	時候
7225	明治43年	春の部	餌につかぬ魚を惡むや水長閑	長閑	時候
7226	明治43年	春の部	耳穴の痒き同病長閑なる	長閑	時候
7227	明治43年	春の部	今の世に異形相の人よ長閑なる	長閑	時候
7228	明治43年	春の部	文庫蹟ものどか諸子木百家草	長閑	時候
7229	明治43年	春の部	弁木猶藏書の如し庭長閑	長閑	時候
7230	明治43年	春の部	人やある例の大笑寺長閑	長閑	時候
7231	明治43年	春の部	花にさそへば笠縫うて居る人つれな	花	植物
7232	明治43年	春の部	掃苔会一樹の花にこぞりけり	花	植物
7233	明治43年	春の部	一搏の鳥にかほどの落花哉	落花	植物
7234	明治43年	春の部	一韵十疊満都の花に傳唱す	花	植物
7235	明治43年	春の部	水石の奇趣に蝦夷名や山櫻	山櫻	植物
7236	明治43年	春の部	十日すぎて見る野火埃水温む	水温む	地理
7237	明治43年	春の部	勸農譚皆耳寄せて水温む	水温む	地理
7238	明治43年	春の部	鋤ぶりも遺制めくあり水温む水	水温む	地理
7239	明治43年	春の部	流るゝもの卑きについて水温む	水温む	地理
7240	明治43年	春の部	枝に鳥の徒に居る見ゆ水温む水	水温む	地理
7241	明治43年	春の部	熱喝に耳ほがらなり山笑ふ	山笑う	地理
10610	明治43年	春の部	稀に入れば柳散ると云ふ	柳	植物
7307	明治44年	春の部	親によく肖て四ツ白の麗かに	麗	時候
7309	明治44年	春の部	龜鳴くよ塔一見の本望に	龜鳴く	動物
7310	明治44年	春の部	龜鳴くや紙に記せば断碑考	龜鳴く	動物
7312	明治44年	春の部	火口作る家傳も徒に桃の花	桃	植物
7313	明治44年	春の部	酔ひて後又の日の桃見約しけり	桃	植物
7314	明治44年	春の部	酒の名に典故あり桃葉勝にて	桃	植物
7315	明治44年	春の部	桃散るや貨すまじき馬書借に来る	桃	植物
7316	明治44年	春の部	三日の徭役果てゝ桃の宿	桃	植物
7317	明治44年	春の部	媚ぶと貶す人すげなくも桃の花	桃	植物
7318	明治44年	春の部	ある時は師や媿々として桃の花	桃	植物
7319	明治44年	春の部	未子の事又念頭に桃の花	桃	植物
7320	明治44年	春の部	緋桃白桃家道復び盛ン也	桃	植物
7322	明治44年	春の部	聖徳は飽まで桃に睡りけり	桃	植物
7324	明治44年	春の部	一鳥も一魚も縁に木芽ふく	木の芽	植物
7326	明治44年	春の部	晴耕の心魚鳥と相照す	耕	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7327	明治44年	春の部	春田打ちし疲や関す金蘭簿	田打ち	人事
7329	明治44年	春の部	片言を交して花に急ぐ人	花	植物
7330	明治44年	春の部	行春と題して筆を擱きにけり	行春	時候
7331	明治44年	春の部	行春と題す乃ち筆をおく	行春	時候
7333	明治44年	春の部	君に手紙書き了へて石竹を植う	石竹植う	人事
7416	明治45年	春の部	天斧山脈を斷つ東風吹息まず	東風	天文
7417	明治45年	春の部	春寒し今到着の書册積む	春寒	時候
7418	明治45年	春の部	京よりの封筒よ文字よ春の雪	春雪	天文
7420	明治45年	春の部	桃の花はかくて千載不易なる	桃	植物
7424	明治45年	春の部	君が意蓋し霞を盛れとこそ	霞	天文
7426	明治45年	春の部	木實植て倦まず鳥鳴く諸声に	木實植う	人事
7428	明治45年	春の部	魂や遊ぶ画譜の花鳥の蝕みし	花	植物